

# 広報 鳥海の里

題字 開成支援課かえで寮 沢 口 金 男

第122号 平成17年3月1日

発行 秋田県心身障害者  
コロニー保護者会

保護者会事務局

TEL(0184)32-1082 FAX(0184)32-1083

生産品直売所「歩人」TEL(0184)33-4310

地域生活サポートセンター「歩人」TEL・FAX(0184)32-0123

秋田県心身障害者コロニー

秋田県由利郡西目町出戸字孫七山3の2

TEL(0184)33-2255 FAX(0184)33-2044

ホームページアドレス <http://www.fukinoto.or.jp/colony> E-mail colony@fukinoto.or.jp



## 主な内容

- \* 実践発表会 ..... 2~3
- \* 育成会全国大会 ..... 4
- \* 行事スナップ ..... 5
- \* 診療所情報 ..... 6
- \* 自治会交流会 ..... 7
- \* ふれあい文化祭作品集 ..... 8



# 由利地区事業部 実践発表会

去る十一月一日、コロニー大広間を会場に実践発表会が開催されました。今年で二十六回目を迎えるこの実践発表会は、各支援課において実践した研究の成果を発表し合い、職員の自己啓発に資すると共に、援助技術の向上を図ることを目的として開催されているものです。

ここに、発表内容について一部ご紹介いたします。

## 実践発表一

### 高齢者や医療的ケアを必要とする人が 地域生活をするためには（抜粋）

重度高齢者を中心とした創生支援課では、十六年四月よりグループホーム二棟を立ち上げ支援している。今回、本人の希望や個別支援計画を基に、施設からグループホーム移行へ至った事例をあげて報告した。

#### ※体験ハウス

コロニーに入所しながら、地域で生活を体験する。創生支援課では、これまで二十六名の利用者が輪番制で地域生活を行なった。

#### （まとめ）

◆平成十六年度、「地域」で生活したいと自分の意志を強く表し、グループホームに入居、地域生活を開始する。毎朝のバイタル確認を確実に実施し、喘息発作が起こらないように努めだが、夜中に喘息発作を起こしそうだ。

日間程入院する。その後も診療所での定期検診、看護師の定期的なハウス巡回、世話人さんの毎日の体調確認などで徐々に健康維持が図られている。

◆平成十五年度、十月後期自活訓練開始。地域生活移行に伴い、診療所渋谷医師等専門職員に相談し、服薬管理と一日三回の吸引の自己管理を確実に行なうなどの指導を受ける。本人の中にも健康管理に対する自覚がみられた。

R・タクシーを利用してのグループ及び単独での外出・外泊訓練の回数を重ねるにつれ、地域での生活にも慣れてきた。休日には近所を散策し、嗜好品を購入したり、理髪店・温泉・レンタルビデオ店を利用するなど余暇時間を自分なりに過ごせるようになり積極性もしてきた。

◆今後、利用者のグループホーム移行後の「生活の質」が施設入所時よりも低下することがないように、世話をを中心とした近隣住民の支え、診療所およびサポートセンター等関係機関との連携体制の確立が必要である。また、休日等余暇支援の拡大や健康管理など個々のニーズにそつた適切な支援を心がけ、これからライフステージが充実したものとなるよう、今後とも努力していきたい。

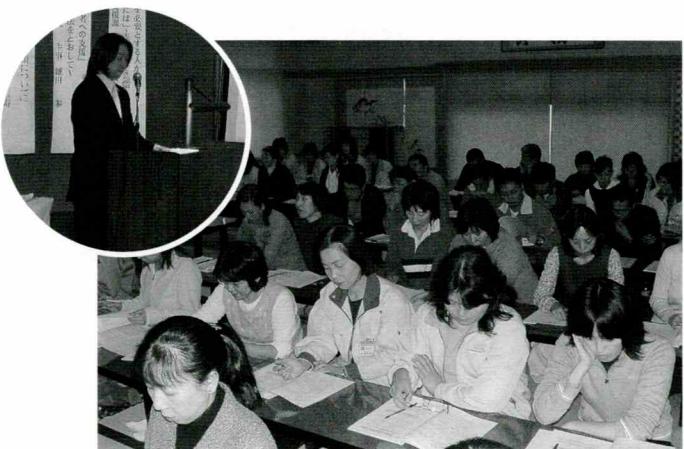
#### 今後の課題

◆今後、利用者のグループホーム移行後の「生活の質」が施設入所時よりも低下することがないように、世話を

の快適な生活が送れるような支援体制が取られている。

- ◆事例紹介 ◇ I・Sさん（男性 六十三才）  
（気管支喘息の疾患あり）  
平成十四年度、本人の希望を受け「体験ハウス」を利用する。  
「食事が暖かくておいしい。居室でゆっくりくつろげた」と、ハウスの生活を気に入った様子。
- ◆平成十五年度、十月後期自活訓練開始。  
地域生活移行に伴い、診療所渋谷医師等専門職員に相談し、服薬管理と一日三回の吸引の自己管理を確実に行なうなどの指導を受ける。本人の中にも健康管理に対する自覚がみられた。
- ◆平成十五年度、十月後期自活訓練開始。  
地域生活の希望があり、自活訓練開始時から意欲的に取り組む姿勢が見られた。訓練を行うことで、本人のニーズに対して一定の成果があげられ、家族の了承及び実習先での正式な受け入れも決まり平成十六年四月のグループホーム移行につなげることができた。グループホーム移行後体調を崩すこともあつたが、世話を

を中心とした各機関が協力して、地域



## 意思表示が困難な利用者への支援 ～療法をとおして～（抜粋）



銀杏支援課重度更生棟は、全員障害程度区分が「A」と重く、日常生活支援に多くの手助けを要する人たちが生活している。数年前より、日々の生活を楽しめるような内容の支援を工夫し提供できるように、音楽療法、スヌーズレンといった活動を導入している。今回は、これらの活動を取り入れた支援経過を報告した。

### 音楽療法とは

音楽の特性を生かして対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図ることができる。

### 音楽療法の取り組み

実践当初は、利用者の知的または身体的障害の程度や年齢、音楽に対する興味などばらつきがあり受け入れてもらえたかった。しかし、参加を強制することなく「待ち」の姿勢をもつてゆっくりと行動に変化が見られるようになつた。

Nさんは、療法導入後はオムツや綿類を食べるといった異食行為が殆ど見られなくなり、また、他の利用者によっては笑顔が見られるようになつた。一概に音楽療法だけの効果とも言えないが、音楽による不思議なリズムの中でもみんなと触れ合い楽しむことにより情緒安定が図られたのではないかと考える。

また、音楽療法の関わりから、利用者を見る支援員の「目」も変わり、「あれっ、これもできるんだ」といった「いいこと探し」を前向きに行うようになった。コミュニケーションをとることがなかなか難しい中で、音楽を聞きながら空間を共有することによって信頼関係が生まれ、利用者との距離も近くなってきたのも確かである。

Rさんは、入所して間もない頃、新しい環境に慣れないこともあり、他人に突然つかみかかたり抱きついたりなどの粗暴行為や、突然大声を出す、走るなどの不安定行動が目立ち、周囲に恐怖感を与える存在となっていた。

そこで、病院や専門機関に相談し指示や助言を受け支援にあたつた。相談の結果を受け、検討のうえ次のことを行った。

- (1) 生活の流れの構造化を図るために課表を作成した。
- (2) 行動の構造化を図るため、役割を決めた。
- (3) 役割の是非を示す絵カードを作成した。

行動記録簿を作成し、支援員全体

## 自閉的傾向にある利用者の生活支援について（抜粋）

白光支援課では、個々の障害に応じた作業やクラブ・余暇活動を行い、充実した生活を支援するために、月ごとに変化のある週間日課が組まれている。しかしながら、自閉的傾向のある方には馴じみにくいものとなつていて、

（5）班作業について、作業日ごとに内容が変わる外作業の地域活動班から、作業場と作業内容が決められている作業班へと変更した。

### 結果と考察

行動記録簿の作成により、Rさんの一日の行動が把握でき、よく立ち寄る場所に日課表を掲示したところ、文字が読めるという知的能力の高さもあり日課表の理解につながった。

絵カードの提示は、視覚に直接訴えることにより役割の認知の定着が早く、有効であることが再確認できた。作業班についても、特有のこだわりにより時間がかかりすぎる傾向はあつたものの、離脱することなく作業を行うことができるようになつた。

当初、自閉的傾向にある方が集団生活をしていく中で、その日課の流れに乗るために方策を探ることを目指して取り組んできたが、進めていくうちに施設が用意した流れに乗せようとするのではなく、個々が持っている「その人らしさ」を適切に理解し、個々に応じた日課を行うことが、今一番求められていることではないかと考えるようになつた。

利用者が安心感のある快適な生活が送れるよう支援に努めていきたい。

# 第53回全日本手をつなぐ育成会全国大会

大会スローガン



## 南の邦から 障害者福祉に新しい国を ～ウマンチュ（万人）と共に～



はじめに、全日本育成会常務理事である松友氏より地域に根ざした育成会の活動、市町村育成会活動の活性化と課題について基調講演がありました。五十年前、育成会が産声を上げてから今日に至るまでの発展と変化について話されました。又、育成会の理念として、自立と組織・財源の確立とそれを受けるバランスが必要であること、地方自治の時代、運動の中心は市町村の育成会に移行していく事、育成会は家族を含めて支援するという原点を再確認することの大切さを強調されました。

次に、本人活動代表委員の阿部八重さんより、本人活動の内容と「あらゆる場所で本人達が話せる場所がほしい」「私たちに関することは私たちを交えて決めてほしい」「親や

私は「育成会活動」をテーマにし、八分科会に参加し、勉強させていただきました。

はじめに、全日本育成会常務理事である松友氏より地域に根ざした育成会の活動、市町村育成会活動の活性化と課題について基調講演がありました。五十年前、育成会が産声を上げてから今日に至るまでの発展と変化について話されました。又、

去る十一月六日・七日の二日間、沖縄県那覇市において「第五十三回全日本手をつなぐ育成会」が開催されました。

私は「育成会活動」をテーマにし、八分科会に参加し、勉強させていたしました。

私は「育成会活動」をテーマにし、八分科会に参加し、勉強させていたしました。

社会に私たちの主張を聞いてほしい」という意見を力強く話され、会場は満場の拍手でした。

また、後見人をされている参加者からの声で、「親戚他本人の面倒を見る人が誰もいなため後見人を要請されたが、親の会から入会のすすめもないし、行事の案内もない。保護者が果たす役割を後見人という立場で代理しているのだから会員になつてもいいのではないか」との発言がありました。これについては、時間の関係上事務局からの回答は得られず、次回の課題となりました。

今回の大会参加にあたっては、好天に恵まれ、沖縄のすばらしさをも実感してまいりました。

田口会長はじめ、同行していただきました皆様には大変お世話になりました。

お礼申し上げますと共に今後も会の発展のため、微力ながら協力することを誓い申し上げ、全国大会参加の報告とさせていただきます。

銀杏支援課保護者

亀卦川 優志



感想

本人大会に参加した開成支援課かえで寮の立原雅哉さんは、参加申し込みした時から、それはそれは大変楽しみにしておりました。  
立原さんに、参加してみての率直な感想を述べていただきました。

たくさんの人と知り合えるのを楽しみにして、自分の名刺を作つて準備していきました。自分は、友だちと本人活動の会を作りたいと思ってるので、どのようにして作ればいいのか、どう全国のみんなはどんな活動をしているのか、色々な話を聞いてきました。自分は二十五才ですが、もっと若い人が頑張っているなと思いました。同じホテルに泊まつた人と仲良くなり、名刺交換したり携帯電話の番号を聞いたりしました。

お互い「また来年会おうな」と言いました。

来年は広島です。また行ってみたいと思います。

# 収穫感謝祭



昨年十一月、農林生産物の収穫を祝い、またお互いの健康に感謝し、神事が行われました。職員・利用者の各代表が玉串を奉納し、また新たな願いを込めました。神事終了後は、実習利用者の労をねぎらい、収穫した野菜や肉がたっぷりと入ったとり鍋に舌つづみを打ちました。



## バイキング食

赤光支援課

西目小学校の皆さんから  
いただいたお米を炊きこみご飯  
にしてメニューに登場。  
味も格別でした。  
ありがとうございました。



おいすい



ついつい迷い箸に。

私たちが年廿・  
年男を代表して  
あいさつ  
しました。

2005 ケツコーな年に

新年あいさつ会  
1/5

みんな元気に頑張りましょう!



本場仕込みの  
安木節に  
拍手喝采!!  
当直員の田中さん

利用者の皆さんのがん健康を支えるため、念願であつた常勤医師による診察と二十四時間の看護体制を整えてから早や六年たちました。

現在は診療所長が毎日診察にあつておられる他、歯科週二回、循環器内科月二回、精神科月一回、診察を行つております。また、毎週一回、共同診療として由利組合総合病院に入院中の利用者の方にも出向いて診察しています。

診療内容としては、毎月定期的に寮診察を行つておる他、臨時診察や休日夜間の急患診療など、二十四時間診療体制をとっています。疾病状況としては、高齢化とともに重症心疾患、悪性腫瘍、脳卒中、誤嚥性肺炎、骨折などが増加し、ターミナルケアを必要とする利用者の方も増えてきました。

療法士が常勤となり、身体機能が低下した利用者の皆さんの骨折後のリハビリやねたきり予防のため、毎日訓練を実施しています。身体機能の衰えに伴つて、骨折、誤嚥性肺炎、廃用性症候群などが増え転倒防止・高齢者にあつたソフト食の提供・口腔衛生など、支援部門

・給食部門・診療部門一体となつた取り組みをすすめています。

その他、常に感染症にも注意を払い、十一、十二月には利用者の皆さん、職員ともインフルエンザ予防接種を実施している他、感染症対策マニュアルを整備し、それにそつて予防に努めています。

また、年間を通して健診を実施しており、悪性腫瘍等、疾病的早期発見のため、昨年より、前立腺癌検診を加えました。その他高齢化によりバリウムを誤嚥してしまう利用者の方が増えたため、採血による胃検診も行つております。

今後も、利用者の皆様が安心して生活できますよう、またそれを支える支援職員とより良い連携が図れますように努力してまいりたいと思います。

## 各科の診察日・時間

<b>内科</b>	月～金曜日 午前 9：30～11：30 午後 2：00～4：00 ※水曜日は午前のみ 第1・3水曜日（午後）
<b>循環器内科</b>	第1月曜日 14：00～15：00
<b>精神科</b>	毎週金曜日、第2・4水曜日 午前 9：30～11：30 午後 2：00～4：00
<b>歯科</b>	毎週金曜日、第2・4水曜日 午前 9：30～11：30 午後 2：00～4：00
<b>機能訓練</b>	地域の皆さんもご利用できます

この他、4月～1月にかけて各種検診や予防接種を行なっています。

### 健康診断

4月	B型肝炎予防接種 ツベルクリン反応検査
5月	乳癌検診 定期健康診断（春季）
6月	腸内細菌検査 (歯科検診) 結核検診（間接）
7月	大腸癌検診 眼科検診
9月	婦人科検診 腸内細菌検査 胃検診
10月	結核検診（直接）
11月	定期健康診断（秋季） インフルエンザ予防接種
12月	インフルエンザ予防接種
1月	(胃検診 PG法)

## 診療所の1日

- 6：30～7：00 検査（採血・採尿）
- 7：00～7：20 血糖値測定・インスリン注射
- 8：00～9：00 検査（採血・採尿・心電図・エコーなど）
- 9：00～9：10 朝の打ち合わせ
- 9：10～9：20 看護師申し送り
- 9：30～11：30 診察・処置
- 11：30～11：40 血糖値測定・インスリン注射
- 13：30～16：00 診察・処置
- 16：40～16：50 宿直者への申し送り
- 17：00～17：15 血糖値測定・インスリン注射
- 18：00～22：00 巡回・処置・翌日の診察準備  
処置のコンピュータ入力等
- 22：00～5：30 仮眠・急患への対応

多忙な



1人1人優しく診てくれます



歯科診察の1コマ



## 自治会交流

# 秋田県ともだちの会

コロニーにおいて  
ひばり園の皆さんと  
交流会を実施  
意見交換も活発に



### 本人の感想

開成支援課かえで寮 大槻 幸治

秋田県ともだちの会にさんかして私はこの会に一回目からさんかして今回で六回目とズーと参加している一人ですが、寮生活のあり

### 職員の感想

「地域での生活・仕事について」「ともだちをつくる」など六つの分科会で意見交換を行いました。それぞれの分科会には各施設長らも助言者として参加しました。

「地域での生活・仕事について」をテーマにした分科会では、参加者が就業体験をもとに仕事上の苦労・要望などを発表。「給料でそ

で岩城町のウェルサンピア秋田において開催されました。今年で六回目、県内各地や山形県の合わせて三十三の施設と団体から利用者や支援者ら、過去最多約二百六十人（コロニーからも利用者十三人・支援者四人）が参加し、「大事にしよう自分の思い・自分らしく生きるために」の大会テーマで「地域での生活・仕事について」「とも

### 平成十六年度 知的障害児者本人活動事業 秋田県ともだちの会 岩城大会

岩城大会

一月二十五日から二日間の日程

で岩城町のウェルサンピア秋田に

於いて開催されました。今年で六

回目、県内各地や山形県の合わせて三十三の施設と団体から利用者や支援者ら、過去最多約二百六十

人（コロニーからも利用者十三人・支援者四人）が参加し、「大事に

しよう自分の思い・自分らしく生

きるために」の大会テーマで「地域

での生活・仕事について」「とも

だちをつくる」など六つの分科会

で意見交換を行いました。それぞ

れの分科会には各施設長らも助言

者として参加しました。

「地域での生活・仕事について」

をテーマにした分科会では、参加

者が就業体験をもとに仕事上の苦

労・要望などを発表。

「給料でそ

れなりの生活をしている・長い間働けるようまじめに取り組みたい」と意欲を見せる人、又「職場で嫌なことを言われても我慢して仕事をしている」と訴える人もおり助言者から「我慢しすぎず、支援者や職場の人相談すれば何とか解決の糸口も見えてくるのではないか」などアドバイスをしていました。

今回参加した利用者から「なつかしい人に会えて良かった。他の施設の利用者・支援者などと交流を深め楽しかった」と話していました。

最後に、助言者から「施設に入っている人も日々、食費・光熱費・医療費などについて徴収されますよ」と話しがありびっくりしていました。

いたようです。いろいろな情報交換の場になりましたが、福祉を取り巻く環境が益々きびしい状況にあることを実感した大会でした。

### 利用者の動き △入所

十一月二十六日付

創生園つつじ寮

佐々木俊介さん

（雄勝町出身）

十二月一日付

銀杏園けやき寮

加賀谷宗さん

（本荘市出身）

一月一日付

赤光園みづき寮

佐々木俊介さん

（金浦町出身）

十一月十七日付

開成園さくら寮

京極哲郎さん

（湯沢市出身）

十一月十八日付

開成園あやめ寮

伊藤かおるさん

（山内村出身）

△退所

十一月二十七日付

開成園さくら寮

下山博正さん

（四十九歳）

十一月二十九日付

開成園さくら寮

今野勝正さん

（五十七歳）

十一月三十日付

けやき寮

御船光一さん

（六十二歳）

十一月二十九日付

けやき寮

須田肱次さん

（四十九歳）

十一月三十日付

けやき寮

工藤楨子さん

（卓也さん）

十一月三十日付

けやき寮

藤本善敬さん

（昇さんの父）

十一月三十日付

けやき寮

昇さん

（悌一郎さん）

十一月三十日付

けやき寮

育朗さん

（卓也さん）

十一月三十日付

けやき寮

卓也さん

（卓也さん）

# ひれあい文化祭 作品集



筆の流れが  
いいなあ



色使いがすてきです。  
根気よく頑張りました。



銀杏支援課すずらん寮  
畠本サヨ子さん

おめでとう!!  
みんなの頑張りに  
拍手です。



ヨッ!さぶちゃん  
思わず声をかけて  
しまいそう



開成支援課あじさい寮  
伊藤 清子さん

そこで口や裾の仕上げもていねいです。  
私にも一枚…

折り紙を器用にちぎって見事に完成。アイティアマンです。



みんな表情が  
違つていい



おみごと! 紙とは思えない葉っぱの色彩



散歩中に  
見つけた枝で  
アレンジ。芸術だー。

見つめていると  
癒されます。



見つめていると  
癒されます。